

英国視察調査を成功させるアポ取り 3つの勘どころ

ロンドン事務所

英国を訪問される自治体の多くは、先進的な取り組みの視察調査を目的としています。しかし近年、所管している9か国の中でもとくに、英国においてアポの申し入れを断られることが増えてきており、当事務所でも対応に苦慮しています。長引く不況と、緊縮財政を進める中央政府の補助金削減によって、予算・人員が減り、視察対応に職員を割く余裕がなくなっていることが背景にあります。¹日本国内の視察であれば、「お互いさま」と受けてもらえても、英国では「会ってもメリットがない」「業務上も評価されない」と判断されてしまうのです。

とはいえ百聞は一見に如かずという言葉通り、視察によって得られるものは多く、なんとかアポを成功させたいところ。そこで今回はそんな厳しい相手に対するアポの成功率を高める、3つの勘どころをお知らせします。1. ギブアンドテイクの精神で、2. 適切な相手を選んで、3. どうしても会いたいと言う情熱を示すのが、成功の秘訣です！

1. ギブアンドテイクの精神で！

まず、相手に対して、こちらは何を提供できるのかを考えると、成功率が高まります。相手側にしてみれば、貴重な時間を割くのですから、自分の仕事に参考になることも教えてもらいたいという気持ちを抱くのは当然です。

福岡県議団の受け入れをリバプール市の経済部門に申し入れた際、福岡県のビジネス環境や魅力を紹介するDVDをお送りしておいたところ、快諾いただき、さらに福岡のビジネスチャンスについて30分ほどのプレゼンテーションをしてほしいとの依頼も受けました。福岡県側にとって良いPRの機会になり、訪問後、リバプール市からは「これまでアジアと言えば中国で、福岡を意識していなかったが、イメージが変わった」との感想をいただきました。宮崎県職員の方が英国及びフィンランドで自殺対策についての調査をされた際も、「日本の自治体の取り組みについてお話しできるので、ぜひ意見交換をお願いしたい」と働きかけて、アポ取りに成功されました。

少し脱線しますが、実際に訪問した際にも、「お返し」の



福岡県がアポの申し入れの際にリバプール市へ送ったDVD。



マンチェスター大学自殺防止センターやチャリティ団体の専門家と意見交換を行った宮崎県の宮田さん(左から2番目)。

¹ 英国自治体の国際業務は、非常に厳しい外部からの監視の目にさらされており、経済関係重視に変化しています。英国自治体の国際戦略の動向をまとめたロンドン事務所マンスリートピック 2012 年9月号もご参照ください。

<http://www.jlgc.org.uk/jp/information/monthly/2012/index.html>

チャンスはあります。説明を受けてどんな感想を持ったか、日本ではどのように対応しているのかアイデアを交換することが、貴重なお返しです。その場でしっかりと話すだけで、先方に非常に好印象を与えることができ、帰国後追加質問があった場合にも、喜んでお答えいただけると思います。

2. 適切な相手を選んで申し入れを！

アポイントメントの申し入れ相手として、じつは中央省庁やロンドン市はあまりお勧めできません。時間を割く余裕がないというのが一番の理由でしょうが、外交儀礼上も釣り合わないと思われるのでしょうか、なかなか受け入れてもらえないのです。もともとロンドン市には企画・政策部門しかなく、職員数は 600 人程度。このため政策提携協定を結んでいる東京都以外の自治体からの依頼に対しては、極めて厳しい対応をされる場合が多くなっています。

地方自治体の関係者としてアポを取りやすいのは、やはり同じような規模の地方自治体や、地方議員になるかと思えます。英国には 300 以上の自治体があります。訪問先候補の選定についても、ご相談に乗りますので、旅程を固めてしまわれる前に、早めにご連絡をいただければと思います。

3. なぜ会いたいかをアピール！

最後にやはり一番大事なものは、「自分の自治体ではこのような事情で困っている」、「あなたのことを調べたからこそ、ぜひ訪問したいと思った」と、熱意を示すことだと思います。

具体的には、例えば自分の自治体の課題を説明できるような英文資料を用意する、インターネットで先方の最近の動きを調べ、相手の琴線に触れるような依頼文を作る、などです。

広島市が「再生可能エネルギー導入・省エネ施策」に係る視察調査で、ニューキャッスル市にアポを申し入れた際には、同市が「2014 年ヨーロッパ・グリーン・キャピタル・アワード」に立候補しているという点を絡めて依頼文を作りました。宮崎県が英国保健省にアポを申し入れた際は、県や日本の状況を説明する A4・2 枚程度の英文資料を添付し、「2012 年 9 月に発表された『自殺防止戦略』について聞きたい」と申し入れました。おかげで双方とも受け入れを快諾いただくことができました。

これらの 3 つの勘どころを念頭にアポ取りをされれば、きっと実り多い視察が実現できると思います。ロンドン事務所でも訪問先の選定、依頼状の作成に関するアドバイス、アポ取りなどの支援をしておりますので、視察調査をご検討中の方は、どうぞ早めにロンドン事務所へご相談ください。

また、さらにいくつかのアドバイスを加えた「視察調査を成功させるアポ取り 5 つのコツ」が「自治体国際化フォーラム 2 月号」に掲載されます。ぜひそちらもご覧ください。



ロンドン事務所では視察をより有意義なものにできるよう、所管国（英国、ドイツ等 9 か国）の地方制度等に関するブリーフィングも行っています。どうぞご利用ください。

(吉本所長補佐 富山県高岡市派遣)